



奈良県感染症情報

令和6年 第43週(10月21日～10月27日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

手足口病 警報発令中!
インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- インフルエンザの予防接種について
- 薬剤耐性菌感染症～11月は「薬剤耐性対策推進月間」です～

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	手足口病	4.62	(5.38)	↘	→	→	↓
2	感染性胃腸炎	4.38	(2.71)	↑	↗	↑	↗
3	新型コロナウイルス感染症	1.27	(1.42)	↓	↓	↘	↓
4	インフルエンザ	0.62	(0.73)	→	↗	→	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.59	(1.21)	↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

第43週の手足口病の定点当たり報告数は4.62で前週より減少していますが、終息基準値の「2.00」を上回っており、引き続き注意が必要です。手足口病は、症状が無くなった後も2～4週間ほどウイルスを排泄し続けることがあります。日頃から流水と石けんによる手洗いを心がけ、タオルの共用は避けましょう。

マイコプラズマ肺炎の基幹定点あたり報告数は4.33で、過去10年で最大の報告数となっています。マイコプラズマ肺炎の主な感染経路は飛沫感染です。潜伏期間は2～3週間で、家族内や職場内、学校内などでしばしば拡がること知られています。予防のため、普段から手洗いやアルコールによる手指衛生を心がけ、咳が出るときにはマスクを着用するなど、咳エチケットを守りましょう。また、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症と同様、適度な換気を行うことも有効です。

❖ インフルエンザ予防接種について ❖

季節性インフルエンザは流行性があり、流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が広がります。流行が本格的に始まる前に、インフルエンザの予防接種について検討するようにしましょう。

○現行のインフルエンザワクチンは、接種すれば絶対にかからない、というものではありません。しかし、発病の予防や、発病後の重症化や死亡の予防に関しては、一定の効果があるとされています。

○13歳以上の方は1回接種が原則です。13歳未満の方は、ワクチンの種類によって接種回数がかかりますので、接種前にご確認ください。

○以下に該当する方は、予防接種法に基づく定期接種の対象となります。定期接種の詳細については、お住まいの自治体にご確認ください。

- ・65歳以上の方
- ・60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方
- ・60～64歳でヒト免疫不全ウイルス(HIV)による免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

予防接種をご希望の方、特に定期接種の対象の方や幼児、妊婦の方のような重症化リスクの高い方は早めにかかりつけ医等にご相談いただき、必要性や副反応について十分に理解した上で接種をご検討ください。

詳しくは「インフルエンザワクチン(季節性)」(厚生労働省HP)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekakaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/influenza/index.html

薬剤耐性菌感染症

～11月は「薬剤耐性対策推進月間」です～



薬剤耐性とは、特定の種類の抗菌薬(抗生物質)が効きにくくなる、または効かなくなることを言います。薬剤耐性をもつ細菌が増えると、薬が効きにくくなることから、これまでは感染、発症しても適切に治療すれば軽症で回復できた感染症が、治療が難しくなって重症化しやすくなり、さらには死亡に至る可能性が高まります。

●薬剤耐性菌の出現

薬剤耐性菌の増加の原因として、抗菌薬の不適正な使用があげられます。必要のない抗菌薬を使用することで、体内にいる細菌がその抗菌薬への耐性をもつ可能性が高くなります。また、処方された抗菌薬の服用を減らしたり自己判断で中断したりするなど、指示された服用方法を変更してしまうと、生き残った細菌から耐性菌が出現することがあります。

●感染経路と症状

薬剤耐性菌はヒトからヒト、ヒトから環境へと広がります。特に、医療機関では、医療従事者の手指や医療器具等を介し、広がってしまうことがあります。薬剤耐性菌は、病原性の弱い常在菌の場合が多く、一般的に、感染しても保菌状態のまま、無症状で経過します。しかし、免疫が低下している患者や高齢者等では、薬剤耐性菌が血中に侵入し、症状を呈することがあります。なお、症状は、薬剤耐性菌が定着する臓器や器官によって様々です。

五類全数把握(4疾患) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)感染症
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)感染症
薬剤耐性アシネトバクター(MDRA)感染症

五類定点把握(3疾患) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)感染症
薬剤耐性緑膿菌(MDRP)感染症

●奈良県における薬剤耐性菌感染症 年次別報告数

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
全数	CRE	35	35	29	21	33
	VRE	4	9	3	9	1
	VRSA	0	0	0	0	0
	MDRA	0	0	0	0	0
定点	MRSA	553 (92.17)	418 (69.66)	457 (76.16)	385 (64.17)	337 (56.16)
	PRSP	43 (7.16)	17 (2.84)	20 (3.34)	17 (2.85)	32 (5.32)
	MDRP	4 (0.66)	2 (0.34)	1 (0.17)	0 (0.00)	0 (0.00)

() 定点当たり報告数

<https://amr.ncgm.go.jp/pdf/poster-np5.pdf>

●薬剤耐性菌を増やさないためにできること

・抗菌薬は医師の指示どおり服用しましょう

薬剤耐性の拡大を防ぐためには、抗菌薬を適切に使用することが重要です。処方された抗菌薬は、医師の指示どおり、量・期間を守って服用しましょう。症状が治まったからといって服用を中断しないようにしましょう。

・抗菌薬は自己判断で服用しないようにしましょう

風邪やインフルエンザなどウイルスによって起こる感染症には抗菌薬は効きません。症状が似ていても、以前に処方された抗菌薬を自己判断で服用せず、医療機関を受診しましょう。

・基本的な感染対策をしましょう

日々の手洗い・うがいを心がけ、必要なワクチンを接種し、予防できる感染症にかからないようにしましょう。

●参考

厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000120172.html>

政府広報オンライン <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201611/2.html>

AMR 臨床リファレンスセンター <https://amrcrc.ncgm.go.jp>

◆定点把握感染症報告状況◆

令和 6 年 第 43 週 10 月 21 日 ~ 10 月 27 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	吉野		
インフルエンザ	55	14	14	11	10	6	
インフルエンザ	34	11	3	12	7	1	
新型コロナウイルス感染症	70	11	14	15	19	11	
小児科定点数	34	9	9	7	6	3	
RSウイルス感染症	11	1	3	1	5	1	
咽頭結膜熱	7	2	1	1	1	2	
A群溶連菌咽頭炎	20	2	5	3	10		
感染性胃腸炎	149	18	30	26	63	12	
水痘	8	6	1			1	
手足口病	157	32	52	43	28	2	
伝染性紅斑	2		2				
突発性発しん	10	3	1	3	3		
ヘルパンギーナ							
流行性耳下腺炎							
眼科定点数	10	3	3	2	2	0	
急性出血性結膜炎							
流行性角結膜炎	2	2					
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	
細菌性髄膜炎							
無菌性髄膜炎							
マイコプラズマ肺炎	26	4	10		7	5	
クラミジア肺炎							
感染性胃腸炎(ロタウイルス)							

◆全数把握感染症報告状況◆ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核4件(奈良市1、郡山2、吉野1)
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症1件(奈良市1)
4類感染症	レジオネラ症1件(郡山1)
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症3件(郡山2、中和1) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(中和1) 梅毒1件(中和1)

◆入院基幹定点報告状況◆

インフルエンザ	1	新型コロナウイルス感染症	7
---------	---	--------------	---

◆第43週のトピックス◆

◆新型コロナワクチンについて(厚生労働省HP)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html

※データは報告数集計の速報値として公開するものであり、後日奈良県感染症情報(週報)、さらには確定データとしての年報において修正される場合があります。

※令和3年12月20日より内吉野保健所は吉野保健所に統合されましたので、旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

上段:報告数
(下段):定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男			2	1		1				1	4	3	1	1		2	2	2	1		21	6561
	女				2			1	1			1	2	3	1		1	1				13	5674
新型コロナウイルス感染症	男			1		1					3		1	3	2	1	4	2	6	6	1	31	7589
	女	1	1	1							1		2	3	6	3	3	5	4	4	5	39	8616
RSウイルス感染症	男			3																		3	944
	女	1		1	3	1	1	1														8	898
咽頭結膜熱	男			1	1		1	1														4	439
	女			1		1																3	369
A群溶連菌咽頭炎	男						1	1	1	2	1	4	3									13	1901
	女					1				1	3	1										7	1507
感染性胃腸炎	男	1	7	18	10	7	12	8	4	5	8	1	9	2	5							97	3481
	女	2	6	9	6	7	6	2		1	1	2	1	2	8							52	2972
水痘	男									3					1							4	86
	女			1	1								2									4	76
手足口病	男		1	18	11	10	6	8	12	4	2	2	1									75	3363
	女		3	11	14	14	8	14	8	3	5	1			1							82	2852
伝染性紅斑	男						1						1									1	11
	女																					1	16
突発性発しん	男		1	3	1	1																6	195
	女		2		2																	4	187
ヘルパンギーナ	男																						162
	女																						170
流行性耳下腺炎	男																						16
	女																						11
急性出血性結膜炎	男																						2
	女															1	1						3
流行性角結膜炎	男																						2
	女																						123
細菌性髄膜炎	男																						4
	女																						6
無菌性髄膜炎	男																						4
	女																						6
マイコプラズマ肺炎	男		3	4	4	1																12	93
	女	1	1	10		1		1															14
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	男																						
	女																						1

◆注目疾患の動向◆ 全て定点当たり報告数

■ R6 ▲ R5 □ R4 〰 過去10年平均

